



谷 義樹

一、学校再編問題の再確認について 二、各種の情報提供について 三、火葬場建設について

学校再編問題の再確認について

問 「東西に1校」という意見が多いが、その検討はしたか？

答 児童生徒数の状況、施設の老朽化と耐震等、教育環境を第一義に考え1校とする方針を立てた。

問 「府民牧場」が第一候補地となっているが、絞り込んだ経緯は？

答 新しい学校に必要な面積要件、立地条件、土地買収等の条件整備と、大阪府民牧場の、今後のあり方等の条件が合致した中で、候補地とした。

問 「学校がなくなると地域が寂れる」という考えがある。町の方策は？

答 学校は、児童生徒の集団教育の場として教育環境を整えることが重要で、地域が寂れるという考えを優先すべきでないと考ええる。

問 「学校再編整備に関する議会決議」をどう受け止め、どう対応したか？

答 「校区単位の説明会で十分な理解が得られていない。今後、誠意を持って説明せよ」という決議と受けとめている。その後、地域や関係機関へ説明し、理解を求めている。

問 現時点で、「町の説明責任を十分果たした」と判断しているか？

答 何ををもって説明責任を果たしたかを判断することは難しい。今後も情報提供に務め、計画実現に邁進していきたい。

問 「議会の判断を住民の総意とする」考えには無理があると思うが？

答 議会には住民を代表する公選の議員をもって構成され、地方公共団体の具体政策を、最終的に決定する機関である。議会議決が町の進む方向と思

っている。

問 「住民投票で賛否を問え」という動きを、どう見るか？

答 現行の地方自治制度は、議会制民主主義を前提にしている。議会で討論し、決定していただきたい。

火葬場建設について

問 建設予定地は？

答 現在、地元区と候補地等について協議を重ねている。

問 建設計画は？

答 調査費を、6月議会ぐらいに計上する予定で進めている。

「一、各種の情報提供について」は、別の機会に譲りたいと思います。



今中 喜明

一、機構改革について 二、高齢者の過ごし方について

機構改革について

問 新年度にあたり、機構改革や人員の配置、権限移譲について。

答 適切な定員の管理、そして総人件費の抑制を進める一方で、多様化する住民ニーズへの対応の両面で検討する必要があります。ことから、今後とも、組織機構の簡素合理化等適宜対応してまいります。定年退職に伴う職員採用は、平成23年度において実施する予定である。教育委員会の教育人事権の移譲については、24年度から権限移譲というところで事務を進め、23年度に準備室を豊中市の事務局のもとで設けて、新たな権限移譲に向けての協議を進めることとなる。

高齢者の過ごし方について

問 学校再編を契機として、高齢者の過ごし方や移動手段についても町づくりとして検討しなければなら

らないのでは、また高齢者保健福祉計画での位置づけは。

答 すべての高齢者が生きがいを持ち、自分らしく安心して住み続けることのできる町を目標にして、当保健福祉計画を実施しております。高齢者の健康保持については、地域展開型の介護予防事業やインフルエンザ予防接種費用の一部助成を行っています。移動手段については、住民健診時の送迎や過疎地有償運送及び福祉有償運送を制度化いたしました。また、新たな施策につき第2次地域福祉計画の推進、実行に向けた委員組織を設置し、本計画が実現できるよう進めていく。

老人クラブのあり方や組織の存在の意義について

答 地域における老人クラブの存在意義は大きく、町政においても今後もそ

の活躍に期待するところが大きい。一例で申されている地域展開型の介護予防事業も多くの地区で大きな推進力となっている。

一方で、府の補助金の交付要綱が見直され、事業補助に内容が変更され、老人クラブ活動に対する硬直化しているのではないかと危惧しているが、町としては今後とも単位クラブの支援を行うとともに、連絡協議会の存続を支えていく考えである。

